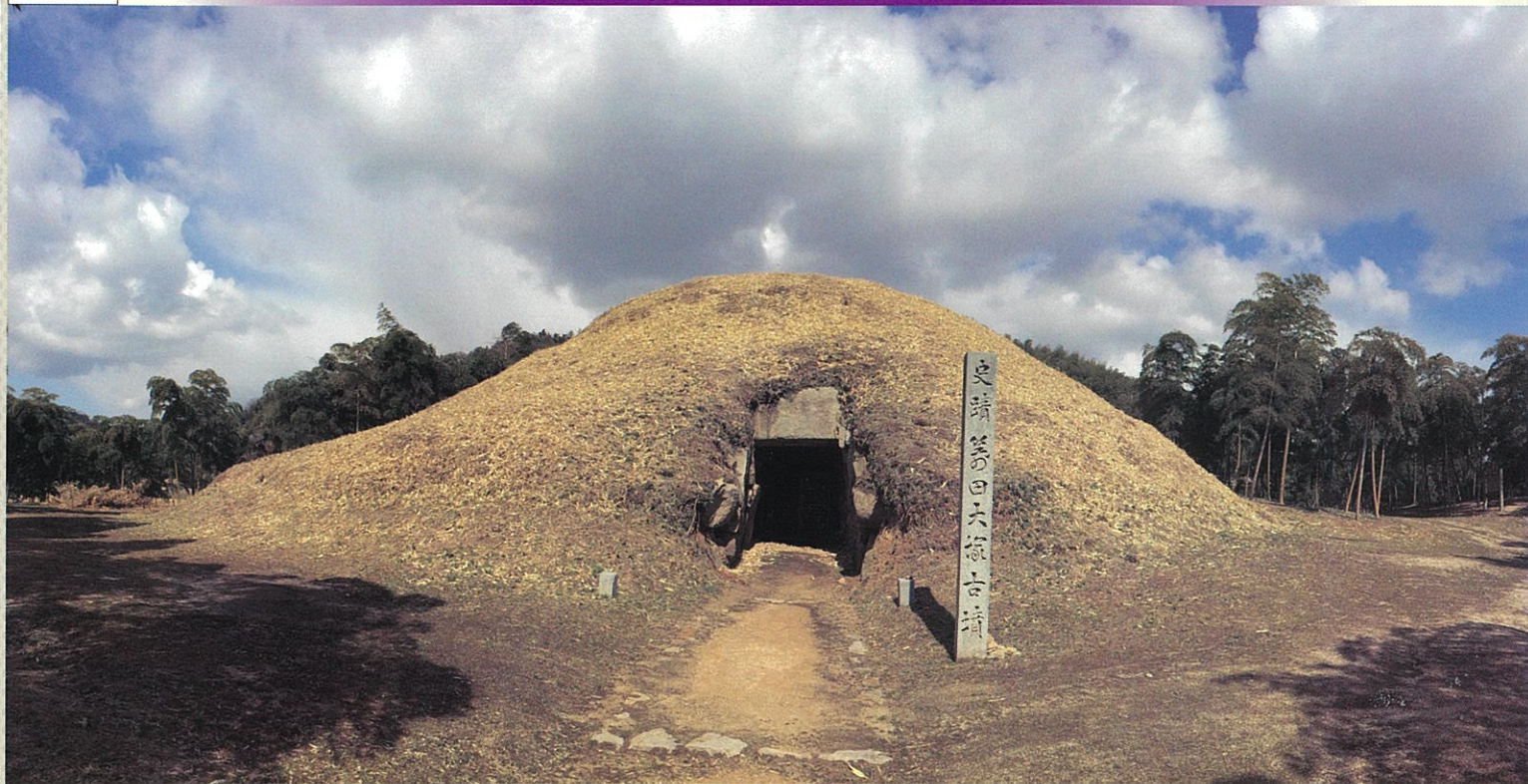




日本遺産
倉敷市

や た おお つか 箭田大塚古墳



箭田大塚古墳は、倉敷市真備町箭田、東流する小田川から北へ 1.5km ほど行った低丘陵の先端部に位置する古墳です。この辺りは古代の行政区でいう「備中国下道郡しもつみちぐん」にあたり、奈良時代の政治家・吉備真備を輩出した地方豪族である下道氏ゆかりの土地でもあることから、有力な古墳や古代寺院などが数多く存在しています。

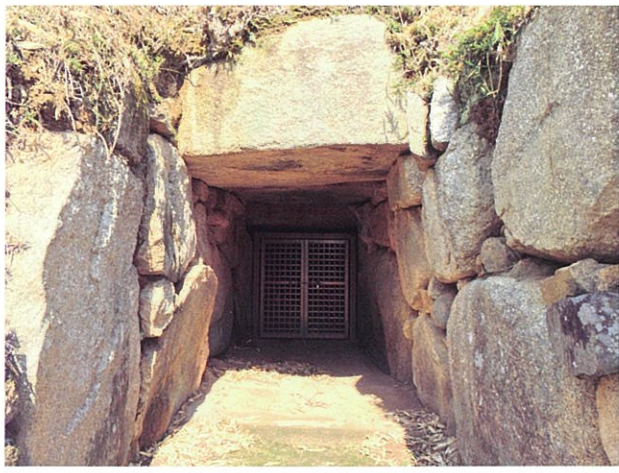
古墳は長大な横穴式石室を有することで知られており、岡山市・牟佐大塚古墳、総社市・こうもり塚古墳とともに、岡山県三大巨石墳の一つに数えられています。石室全長は 19.1 m を測り、棺を納める玄室の長さは 8.4m、高さ 3.8m、幅 3.0 m で、天井は 4 枚、奥壁は 1 枚の巨石でそれぞれ構築されています。埋葬施設としては、奥壁と西壁を利用して 3 基の組合せ式石棺がつくられています。

箭田大塚古墳は古くからその存在が知られており、早くも明治 34 年 (1901) には東京帝国大学により現地調査が行われました。調査では古墳の外形観察や横穴式石室の略測が行われたほか、武器や馬具、玉類などの副葬品も多数発見されており、それらの多くは現在吉備寺と東京国立博物館に所蔵されています。また、その時の調査内容が記載された『備

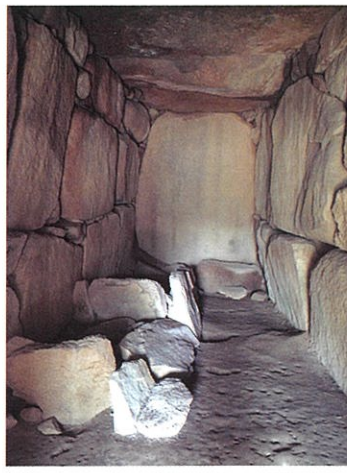
中国吉備郡笹田邸大塚記録』という書物には、4 段の円筒埴輪が墳丘をめぐっている興味深い絵図も存在します。

その後、県史編纂事業の一環として、岡山大学による石室内の測量や吉備寺所蔵の出土遺物の実測が行われ、昭和 58 年には、旧真備町教育委員会により墳丘測量調査と範囲確認調査が実施されました。この時の調査で確認された周溝から、古墳は直径約 50m (周溝含む) の円墳で、西側に長さ 5 m 程度の張り出しを持つことがわかりました。また、出土した須恵器等の遺物から、古墳は 6 世紀後半頃に築造され、7 世紀初頭まで追葬が行われたとされます。

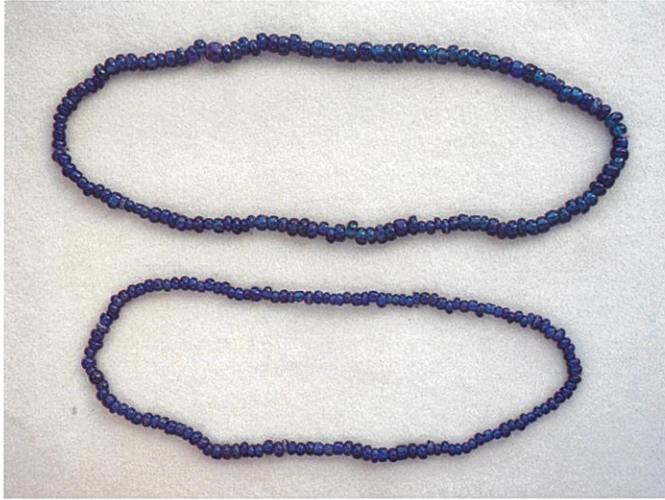




石室羨道部



石室内部 (玄室)



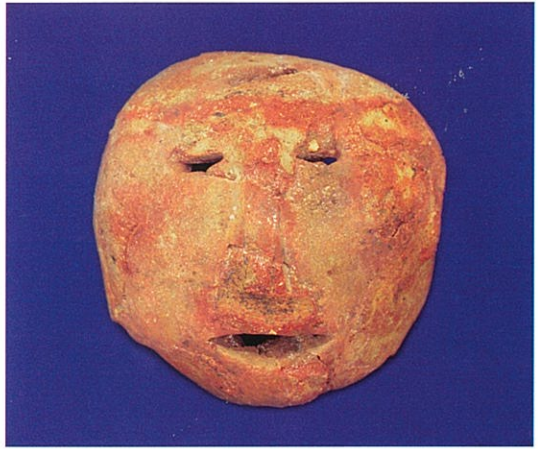
ガラス小玉



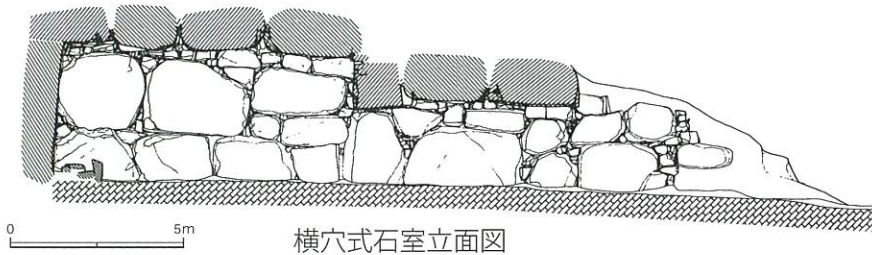
めのう製勾玉



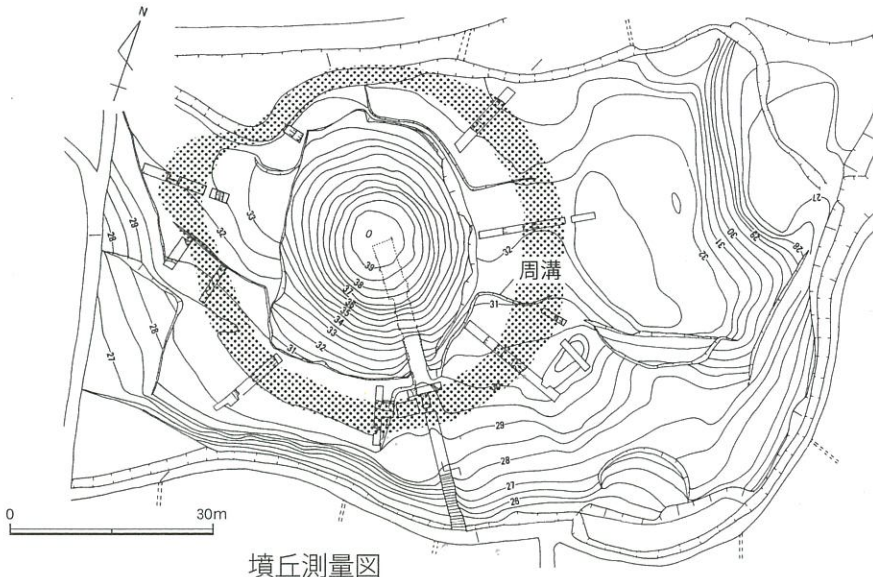
たんほうかんとうたちつかがしら
単鳳環頭大刀柄頭 (市重要文化財)



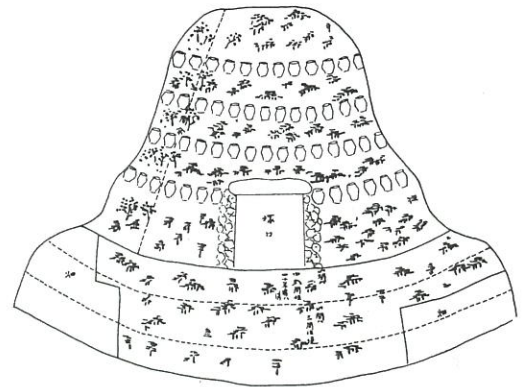
人物埴輪 (頭部)



横穴式石室立面図



墳丘測量図



『備中国吉備郡笹田邸大塚記録』の絵図

JAPAN HERITAGE

「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま
～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～



音声ガイド
Audio guide



37

日本遺産 桃太郎伝説
<https://momotaro-ura.jp/>



【編集・発行】

令和3年3月

倉敷市教育委員会 文化財保護課

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。